

# だいきく通信 第九号「春の号」

## だいきく

日頃より当社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。この冬、東京は例年になく厳しい寒さに見舞われ、久しぶりの大雪も経験しました。ここへきて少しずつ春の気配を感じられる陽気になってきたように感じられます。

少々気が早いですが、「春の号」としまして、社報「だいきく通信」第九号をお届けします。社殿・社務所新築工事に境内整備が終了いたしました。崇敬者のみなさまに安心してお参りいただける環境にするため、引き続き努力していきたくと考えております。今後ともなにとぞよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生

## 大國神社の今

去る二月五日（日）、社殿・社務所新築のお披露目として、竣工記念祈祷祭を執り行い、多数のかたにご参拝いただきました。ありがとうございます。



とうございました。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。今後は、境内入口のスロープ部分に手すりを設置、境内にあるいくつかの段差を解消するなど、お参りしていただきやすい環境を整えるべく努力してまいります。お気づきの点などお知らせいただければ幸いです。（写真は境内スナップ）

## お宮あれこれ〜大國神社の由来と細川潤次郎男爵〜

当神社境内には、旧境内から移設した石碑があります(写真参照)。今回はまず、この石碑をご紹介します(今回の内容は去る一月二十四日、駒込地域文化創造館にて「大國神社の由来と祭神について」と題してお話しした内容の一部です)。碑の文面は次のようなものです。



「藤田氏報恩小碑」

駒込妙義坂大國神社の祭神ハ大己貴尊にましますを世の人称へて日出大國神と曰へり  
天明三年大島吉國ぬし下野の國より今の處に移りし時己か宅に勸請せしものと曰へり  
夫より以来士庶の參詣するもの次第に多く徳川家齋將軍の如きも内々崇

信せられたりと云ふ 五代を経て今の社守吉國ぬしに至りて明治の聖代となり始めて官許を得て社殿を営ミ間もなく繁栄して其規模を広めるなり神徳愈々顕ハれて靈驗を蒙るもの少からず其の中に藤田宗次郎と曰ふものあり本ハ吉野惣兵衛の家に雇われて薬種問屋の業を助けたりき此の惣兵衛ハ資性篤實にして商事に勉励し明治の初頃より此の御神を信して家道隆盛なりき宗次郎ハ親しくその指導を受けて事務に熟練し明治十七年日本橋区岩附町に於て別に一店を開き同じ薬種問屋の業を営み且此の御神を信して祈念怠りしことなし爾来二十餘年家道隆盛に至れるは全く神徳の然らしむる所なりと思ひ社側に一碑を建て神恩に報ひ奉らむとして余にその文を請へり抑々神徳ハ広大にしてあらゆる信徒を守護し給ふものにて此の御神と少彦名尊とは我が國醫藥の元祖にましまして薬種販売の業に縁故あることなれハ吉野藤田両家の神恩を蒙ること偶然のことに非ざるへし余は固より神徳を表章して世の人々に敬神を勧めんとするものなれハ斯くかいつくりて與ふるになん

明治三十八年十二月

従二位男爵細川潤次郎撰

中村方載敬書

前半は当神社の由緒が記されており、江戸期には徳川家齊公が参拝したといったことが述べられております。

当神社の始まりは、天明三年に大島家の先祖が下野の国(現在の栃木県)から駒込に移ってきたことに始まるとされております。こ

の天明三年という年は天明の大飢饉のさなかで、浅間山が大噴火を起こした年でもありました。これは想像ですが、もともと浅間山に比較的近いところに住んでいた先祖が、自然災害の難を逃れて江戸の地に移ったのではないかと考えられます。

後半はこの碑を建てた藤田宗次郎という人物についての紹介です。当神社を熱心に信仰していた藤田氏が、営んでいた薬種問屋が大繁盛したことを感謝し、碑を建立することとなったと記しております。

ところで、この文章を記したのは細川潤次郎男爵という人物です。次に、細川男爵についてご紹介いたします。まず、男爵の略歴は次の通りです。

#### 細川潤次郎男爵

(一八三四年三月十一日(天保五年二月二日)ー一九二三年(大

正十二年)七月二十日)幕末の土佐藩藩士・蘭学者。明治・大

正時代の法学者・教育家・男爵。

司法大輔・貴族院副議長。文学博士

長崎で蘭学、江戸・海軍操練所で勉学。中浜万次郎から英語を学ぶ。吉田東洋に見出され、山内容堂の侍読に。藩校教授(教

え子に中江兆民)。明治政府で近代法導入の功績。女子高等師範

学校 第二代校長

細川男爵はちょうど坂本竜馬(天保六年生)と同時期に同じ土佐



に生まれています。「ジョン万次郎」として知られる中浜万次郎に英語を学んでいます。二人は親しく交流していたようで、万次郎がサンフランシスコから持ち帰ったミシンを使って、二人で縫い物を使

したという逸話が残っているそうです。また、土佐藩校では中江兆民に英語・オランダ語を教えるなど、西洋通の人物でした。西洋の最新の知見を生かし、幕末から明治期という激動期に、日本の原動力の一部となった人物と申せましょう。

また、美食家で庭造りを大変好んだという趣味人でもあったとのこと、なかなか豪快な人柄だったのではないかと想像されます。

先にご紹介した、藤田宗次郎氏の依頼を受けて石碑の文案を作ったことからもうかがわれる通り、当神社とは関わりの深いかたで、明治期に神社としての体裁を整える際にもご支援をいただいております。

大きな功績のあった人物ながらあまり知られていないことを残念に思い、ご紹介した次第です。

## 祭礼・祈祷のご案内

○次回甲子祭

五月三日（木・祝） ご祈祷受付時間 午前五時～十二時

○開運千人講祈祷祭 毎月一日（午前六時～正午まで）

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号にお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三三二九一八七九三〇

お急ぎの場合は携帯電話へどうぞ ↓ ○八〇一九八七七八七二六

eメール [dai kokujinja@gmail.com](mailto:dai kokujinja@gmail.com)

## ウェブサイトのご案内

当神社のウェブサイト（ホームページ）を公開しております。

神社からのお知らせ・神社の由緒のほか、「だいきく通信」の内容も一部抜粋して掲載しております。さまざまなお知らせに活用したいと存じます。機会がありましたら、ぜひご覧下さいませ。なお、ツイッターにも参加しております（アカウントは @dai kokujinja です）。

<http://www.dai kokujinja.org>

## 次号発行予定

「だいきく通信第九号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、七月二日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第九号 平成二十四年三月四日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇〇〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一